

もう一つのバス事故

軽井沢町で大学生ら15人が死亡したスキーツアーバス転落事故から9年。新聞各紙は記事・見出しに遺族の言葉「忘れない」「風化させない」を載せていた。40年前のあの事故の遺族や同窓生、教職員らも同じ思いを継いでいる。

事故は1985年1月28日に長野市で起きた。日本福祉大(愛知県美浜町)の学生を乗せたスキーバスが犀川のダム湖に転落し、学生22人と教員1人が亡くなった。

同大美浜キャンパスの「友



愛の丘」には慰霊碑があり、毎年事故発生日に学生と教職員らが追悼集会を開いている。40年目の今年も。昨年からは「先輩らの無念、遺族の嘆きをこの先も忘れず、事故を二度と繰り返さないように」(同大)と、在学生も事故現場での慰霊に参列。大学挙げて悲史の継承に努めている。

能登半島地震1年を経て、きょう17日は阪神大震災から30年。「忘れない」、いや「忘れない」の意を強くする。

(逢沢哲明)